

## 関西支部シニア会活動報告

行事名	第12回 機械・産業遺産ツアー 第9回 特徴ある技術を有する中堅企業見学会 合同 見学会
回次	
開催日時	2016年2月15日 14:00~16:30
場所	グローリー(株)本社工場 および ショールーム
参加人数	シニア会 23名 学生会 5名 計28名
行程	会社概要および歴史説明 工場見学 ショールームにて 機械遺産 貨幣計数装置および技術・商品変遷の見学 技術についての説明および質疑応答
内容と感想	<p>最初に米田総務部長より、間もなく100周年を迎える同社の歴史と現況の説明があった。創業当時の「求める心があれば成功する。」「研究開発こそが会社を支える。」との精神が受け継がれてきたことが理解出来た。</p> <p>1950年に造幣局より依頼された2015年度機械学会機械遺産に認定されている国産初の貨幣計数機の開発に取り組んで以来、たばこの自動販売機を始めお金を数え、ハンドリングする技術と商品を次々に開発してきた。</p> <p>同社のコア技術である「認識・識別」、「メカトロ」技術を活用して様々な自動販売機、包装機、両替機、仕分け機とそれらのシステム化を図ってきた結果、紙幣の計数や仕分け・出納のシステムでは金融業界のニーズに対応出来たため、国内では80%のシェアを占めるに至っている。</p> <p>1992年の消費税導入を契機に、小売業における釣り銭の払い出しを含むシステムを開発しニーズに応えることにより大きな市場を作ることに成功している。</p> <p>工場見学では、2015年に完成した新鋭工場で同社の商品に適合した混流組立ラインと検査工程を見学した。主要部品については同社と同社の関係会社で製造しているとのことである。</p> <p>ショールームでは、機械学会の機械遺産に登録された国産初の貨幣計数機を見せてもらった。(写真1) この機械は回転皿に盛られた同種の貨幣を遠心力で送り出しながら計数するものであった。更に、異種の貨幣を仕分けて計数したり、仕分けられた一定量の貨幣を包装したりする機構、更には紙幣の計数、仕分けの機構、機械式の機構に電子技術が導入されていく状況など、お金のハンドリングの技術の進化があり、現在の進化した出納システム(写真2)や投票用紙の計数システムにつながって行く過程が分かる展示と説明があり興味深かった。</p> <p>また、次世代のニーズへの対応として顔認証などのセキュリティーシステムの技術開発にも取り組んでいる様子も見学出来た。</p> <p>見学の後、研究開発センター亀山センター長より顔認証技術など最近同社が取り組んでいる技術開発の状況説明があった。</p> <p>亀山センター長を交えた質疑応答では、同社の技術・商品の開発における機械工学の役割は何か、お金のハンドリングに係る残された課題は何か、アフターサービスが重要と思われるがどのような体制を採っているか、等々の活発な質疑応答がなされた。また、学生員からは海外展開の中での勤務地についての質問等がなされ、英語力の重要性が指摘された。</p> <p>全体として、「技術のルーツを探訪し、現在の差別化技術との関連を知る。」との今回の目的に合う見学会になったと感じる。</p> <p>また、参加した5名の学生諸君にとっても有意義な半日となった事と考え、今度も可能な限り学生会の参加を促すこととしたい。</p>

写真1 国産初の貨幣計数機



写真2 複合化された出納システム



写真3 参加者集合写真

